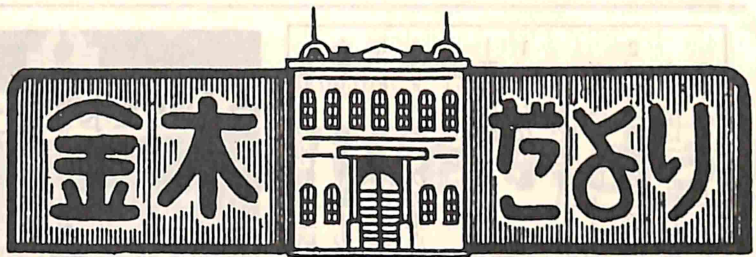




昭和56年 7月号



発行 金木町役場 編集 企画室



献花する長女園子さん

# 桜桃忌

33回目

今年もまた友人や太宰ファンなど約100人が集まり、33回目の「桜桃忌」が催されました。

命日である19日、午前中は津島家のぼだい寺・南台寺、で法要、そのあと歴史民俗資料館に納められた太宰の遺品などを見学し、芦野湖畔に立つ文学碑に次々と献花、今は亡き太宰治を偲んでいました。

## 町の動き

▼6月

3日(水)子宮がん検診(3日)

日曜

6日(土)交通安全母の会総会(福祉センター)

8日(月)金木小運動会

10日(水)喜良市小運動会

嘉瀬小運動会

11日(木)商工会館建設起工式(現地)

14日(日)川倉小・川倉児童館運動会

16日(火)結核検診(4日間)

19日(金)第96回町議会定例会開催

第33回桜桃忌

21日(日)第2・3・4保運動会

27日(土)第1保運動会

28日(日)第11回県下金木俳句大会(嘉瀬公民館)

### 町の人口と世帯数

男	7,187人
女	7,411人
人口計	14,598人
世帯数	3,855世帯
(S56.6.30現在)	

# 異常低温と今後の見通し



去る六月十六日に教育委員会主催の第一回文化講演会が中央公民館大ホールにおいて、約八十人が参加し開催されました。

今年も田植え後に、異常低温にみまわれ代枯れが目立ち、昨年の冷害をまた繰り返す恐れがあるとのこと、これを事前に防ぐためにも今後の天候状態などもしっかり知っておくことの必要性を考え、この講演が行われました。

講演に先立ち、田中町長が「今年こそは冷害などに負かず、確かな収穫によっ

て皆さんで笑えるような年にしましょう。」とあいさつ。主催者側から、中谷教育長が講師紹介をかねてあいさつしたあと、講師である青森地方気象台技術課長の大島汎海氏が「異常低温と今後の見通し」というテーマで講演されました。

講演では気象観測に関すること、青森県の地形、東風による異常低温の発生原因など専門的立場から今後

の天候状態を予測し、「今年の天候も昨年並の異常低温がつづき、真夏日も一週間程度のものできびしい状態になるであろう。」と、分析し理解しやすく、説明しました。

「今年の冷害に二度と負けてなるものか!!」と、今後の天候を気にかけて、秋の収穫を心配して駆けつけた参加者たちは、講師の話に真剣に耳を傾けていました。

## 人権擁護講演会開かる

去る七月十日に、地域住民への自由人権思想を図り、人権擁護活動についての認識を深めるために、田中町長はじめ、町人権擁護委員、町民ら約二百人が参加して人権擁護

講演会が開かれた。はじめに、田中町長が「みんなが元気で長生きしてこそ、明るい町にもなり、人権思想を普及することがはじめて有意義なものになります。」とあいさつ。又、委員を代表して坂本義音氏、講師紹介をかねて大橋勇五郎氏があいさつしたあと、講師である平内町教育委員長の田沢康三郎先生が講演しました。

講演は、笑いも交えて身近で理解しやすいもの为例にとり、参加した人達には大変好評でした。

金木町校外指導連絡協議会では、夏季休業中の青少年、児童らを事故や非行から守ろうと、次の重点事項を設けました。

―非行の防止―  
1、どんな小さいことでも注意し合いましょう  
2、町の無線放送で帰宅、夜間外出について放送しますのでよく守りましょう

3、自転車の二人乗り、服装の乱れ、夜間の一人歩きなど事故と非行につながります。

―楽しい夏休みを―  
1、交通事故防止―  
1、交通ルールをよく守りましょう  
2、プール以外では水に入らないこと  
3、他の市町村に行った時は特に注意しましょう  
―その他―  
1、注意を受けたり素直にきくようにしましょう  
2、よくあいさつを交すようにしましょう  
3、子供会等の行事には親子で参加しましょう

### 夏休み中の事故と非行防止を

金木町校外指導連絡協議会

### 一人権擁護制度とは？

日常生活にかかわる人権についての問題に対処する為に設けられた制度で、法務省には人権擁護局、法務省の出先機関である法務局地方法務局にはそれぞれ人権擁護部、人権擁護課があります。さらに、民間の人々の中から、法務大臣が人権擁護委員を委嘱しています。

これらの機関、委員の役割は、侵害されている人権の回復、人権思想の普及高揚を図り国民の間に人権尊重の意識を浸透させ、同時にこういう問題の発生を未然に防止することです。

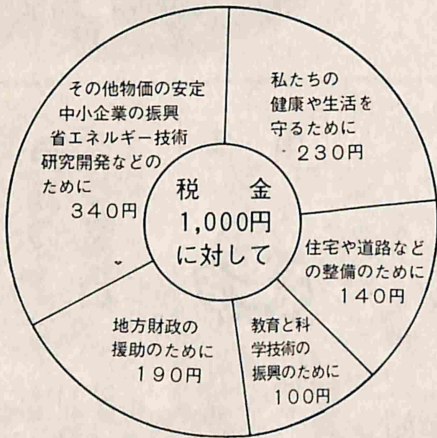


○——— 国税だより

私たちが豊かで安定した生活ができるように、国や地方公共団体は広い範囲にわたりいろいろな仕事をしています。そのためには、たくさんの資金が必要で、この資金は私たちみんなが出し合っていかなければなりません。これが「税金」です。

そこで、私たちが納める税金がどのように使われているのか、昭和56年度の国の一般会計予算で説明しますと、

税金はみんなのために使われる



このように、私たちの生活がより豊かになるように、大切な税金が使われています。



所得税の予定納税第1期分の納税はお済みでしょうか。

第1期分の納税は7月31日までです。お早めどうぞ。

なお、便利な振替納税の制度もありますので、御利用ください。

※詳しいことは、最寄りの税務署や税務相談室にお尋ねください。

交通事故防止に

お年寄りを守ろう!

映画を活用

「お年寄りを交通事故から守ろう」と、さる六月十七、二十二、二十三日と三日間にわたり、老人福祉センターにおいて交通事故防止の講演が行われました。同センターは、毎週月、火、水曜日にお年寄りが無料で入館、入浴ができ、たくさんのお年寄りたちが集まるため、こういう機会にこそ、この講演が催されたものです。

お年寄りたちがひと風呂浴びた後に、金木警察署の今別次長、交通安全協会の神島事務局長さんらの「交通事故にはくれぐれも気をつけてください。」という励まし



熱心に聞き入るお年寄り達

の言葉をまじえた講演や交通事故の恐ろしさを自分の目で見てもらうために映画を上映したり、まさに「お年寄りは、まさに一石二鳥のものです。」

お年寄りは、お年寄りのための講演と映画が終った後、交通事故で尊い命をなくする恐ろしさとしみなどを再認識したらしく、帰りぎわに「これだけ、どとお年寄りどうし声をかけあっていました。」

この運動は、県民一人一人に交通安全思想を普及徹底し、交通ルールの正しい実践を習慣づけることにより交通事故防止を図ることを目的として、七月二十一日から三十日までの十日間に渡って実施されています。金木署でもこの運動に先立ち、さる六月十八日から一カ月間、「三十日ジュウタン作戦」を展開、毎戸訪問を重点的に実施、チラシなども配布し交通安全の啓発を呼びかけました。本県における交通事故は、これからは、夏休み、旅行、キャンプ等、年間を通じて最も交通事故多発時期を迎えることになり、住民の皆さんは十分にご注意ください。

夏の交通安全運動始まる

七月二十一日～七月三十日

六月二十六日現在、発生件数及び死傷者の数は減少していますが、この中で子供と老人の歩行者による死者が増えています。

金木署管内でも今年に入ってから昨年一年間の倍に当たる四人の死者を出すと、この異常事態になっています。

還元融資で

塵芥車購入

先日、厚生年金積立金の還元融資により塵芥車が購入されました。

この厚生年金積立金は、国民年金積立金、簡易保険積立金などと、国民生活の安定向上に直接役立つ生活環境整備(上・下水道)厚生福祉施設(病院、福祉施設等)、文教施設などの分野



に還元融資されているものです。

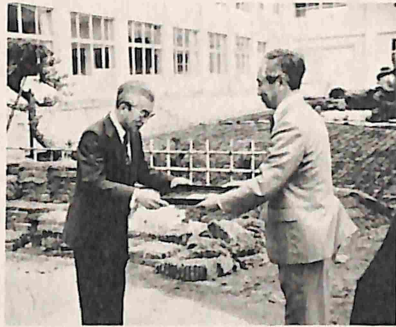
金小に

芝生を寄贈

六月十八日、洋服店経営福田元信さん58が、金木小学校(笹昭夫校長)に十一万円相当の芝生(目録)を寄贈されました。

同小學校は、

金木小学校と蒔田小学校が統合、昨年八月に新校舎が完成し、福田さんは「これからの時代を担い、無限の可能性を秘めた児童たちの情操教育に少しでも役立ってほしい」と



中庭で行われた贈呈式

贈呈式は同小學校中庭で田中町長、中谷教育長、笹校長らが出席して行われたが、芝生とともに児童たちが健やかに伸び伸びと育つようにと願いを込めていました。

戸籍の窓

(六月)

出生



- 浅利 潤(清美) 川倉
- 伊東 雅章(重男) 金木
- 松川 明史(平昭) 嘉瀬
- 山中 和史(晴雄)
- 小笠原 稔(司) 金木
- 小松 啓子(光春) 嘉瀬
- 秋元 佳子(勲) 金木
- 今 美佳子(金明) 喜良市
- 外崎真希子(拓) 嘉瀬
- 今 勇介(俊明) 喜良市
- 下山 直子(康彦) 金木
- 成田 玲奈(境市) 喜良市
- 今 美賀子(重雄)
- 山口 真史(祐司) 金木
- 成田 真人(久雄)
- 野崎美由紀(貞夫)
- 田中 陽子(一雄)
- 桑田亜矢子(清次) 喜良市
- 今 沙織(昭博)
- 須崎亜由美(忠) 嘉瀬
- 横山 夏美(博) 金木
- 横山 友也(定雄) 喜良市

結婚

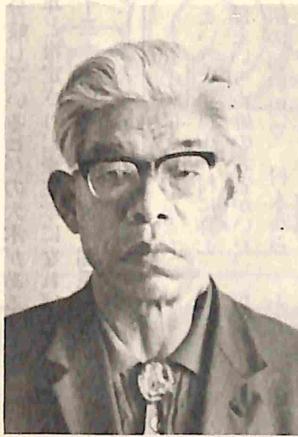


- 棟方 公一(昇) 嘉瀬
- 浜田 佳(宣人)
- 白川賀南子(勝成) 金木
- 伊藤 敬吾(秋美) 嘉瀬
- 田中 真二(洋志夫) 金木
- 虎谷 顕子(雅光)
- 沢田 匡宏(敏彦)
- 三上 春加(猛) 川倉
- 荒関 和恵(昇) 金木
- 伊藤 静香(勝治)
- 長内 勝男(徳造) 木造町
- 藤元 文子(市五郎) 金木
- 高橋 重則(強) 浪岡町
- 鳴海 重子(清太郎) 嘉瀬
- 大橋 圭造(得司) 金木
- 鳴海 啓子(賢造) 青森市
- 山下 雄二(茂喜) 十和田湖町
- 中村 まどか(裕雅) 喜良市
- 斉藤 稔(三次郎) 鶴田町
- 中谷 祥子(忠造) 川倉
- 山中 潤(秀一) 嘉瀬
- 伊丸岡富士子(秀雄) 喜良市
- 山下 信男(与三郎) 横濱市
- 田中 京子(良雄) 金木
- 樋口 巧(繁記) 長崎県
- 小松 まるみ(才吉) 嘉瀬
- 木村 正(征次郎) 横濱市
- 白川 裕見子(幹雄) 川倉
- 松本 弘(一郎) 栃木県
- 成田 良(又五郎) 金木
- 蝦名 正光(義夫) 弘前市
- 角田 イツ子(万之丞) 金木
- 阿部 政昭(正民) 金木
- 高橋 雅子(清重) 五所市
- 角田 久光(弥之) 金木
- 角田 千代(武一) 金木
- 反保 一雄(嘉昭) 福井県
- 傍島 宮子(正文) 時田
- 鳴海 正人(昭治) 金木
- 菊池 まさえ(仁) 茨城県
- 小野 真裕(良三) 中柏木
- 工藤 孝子(金男) 藤枝
- 野宮 昭雄(武雄) 金木
- 藤元 久美子(実) 沢部
- 川村 博(忠助) 鶴田町
- 泉谷 睦子(勝栄) 川倉
- 白川 幹治(兼澄) 時田
- 長利 友子(一英) 浪岡町
- 野呂 朋央(喜代武) 嘉瀬
- 菊地 和子(タエ子) 東京都
- 鳴海 謙一(洸) 嘉瀬
- 小寺 みゆき(栄蔵) 中里町
- 原田 照彦(兵司) 中柏木
- 中村 頼子(又義) 鯉ヶ沢町
- 山下 英三(石雄) 中里町
- 田中 みや子(由定) 金木
- 堀川 猛雄(直治) 青森市
- 工藤 栄美子(峰太郎) 金木
- 新井 和彦(勘七) 喜良市
- 今 井田 満子(律郎) 大畑町
- 田中 輝生(栄治) 金木
- 太田 三重子(千代吉) 小泊村
- 白倉 正作(宅一) 新潟県
- 秋元 まち子(英夫) 金木
- 石戸 谷和久(運太郎) 神原
- 服部 まさ子(よし) 埼玉県
- 荒関 耕治(清美) 金木
- 松山 春代(辰夫) 静岡県
- 神 才以(聖也) 青森市
- 白川 繁子(定右衛門) 金木
- 鈴木 誠一(32才) 嘉瀬
- 岡田 建治(48才) 喜良市
- 米谷 国男(67才) 金木
- 高橋 種一(86才) 嘉瀬
- 伊藤 正雪(25才)
- 其田 俊一(43才) 川倉
- 白川 不二衛門(69才) 金木
- 岩村 サヨ(77才) 嘉瀬
- 奈良 ハギ(79才) 喜良市
- 三浦 シサ(73才) 金木
- 芦田 ハルノ(69才) 喜良市
- 山中 せい(57才) 嘉瀬
- 角田 キグ(82才) 金木
- 伊藤 勉(44才) 嘉瀬
- 須崎 あね(84才)
- 桜庭 永紀(94才) 喜良市
- 今 サト(95才) 川倉

おくやみ



- 鈴木 誠一(32才) 嘉瀬
- 岡田 建治(48才) 喜良市
- 米谷 国男(67才) 金木
- 高橋 種一(86才) 嘉瀬
- 伊藤 正雪(25才)
- 其田 俊一(43才) 川倉
- 白川 不二衛門(69才) 金木
- 岩村 サヨ(77才) 嘉瀬
- 奈良 ハギ(79才) 喜良市
- 三浦 シサ(73才) 金木
- 芦田 ハルノ(69才) 喜良市
- 山中 せい(57才) 嘉瀬
- 角田 キグ(82才) 金木
- 伊藤 勉(44才) 嘉瀬
- 須崎 あね(84才)
- 桜庭 永紀(94才) 喜良市
- 今 サト(95才) 川倉



金木町寺町  
白川 兼五郎さん

「ふる里は遠きに在りて  
思うものなり」と言う言葉  
があります。生まれた金木  
の地を離れたことのない私  
であるが、年をとるにした  
がい、ふる里は恋しく、長  
い年月をはぐくんできた  
数々の思い出……。このロ  
クデナシ」と地のそこから  
先人の叱る声がかきこえてく  
る。それでも生まれたこの  
町の人々の心の温りにしが

### 「金木今昔物語」 を出版

みついて生き続けたい。  
幼な児が叱られ、振り  
離されても後を追いつく母親  
にしがみつくが如しであ  
る。

さて70年もの間にふる  
里も色々と変貌を繰り返  
した。貴重な文化財、年  
中行事ばかりではなく、  
子供の遊び方、四季の味  
覚、服装等々……。  
こういう事を思い巡ら  
し訪ね歩き、書き記すこ  
とは、老いたる者の一番  
楽しい生きがいを感じる  
時である。



### 第一保育所から

6月27日に運動会を開催しまし  
たが、グラウンドの都合上土曜日にな  
りまして、父兄の方々には大変ご迷惑  
をおかけ致しました。  
しかしながら多数のご参加、ご協  
力をいただき、無事盛況のうちに終  
了できましたことを深く感謝致しま  
す。

### 第3回金木地町 少年防犯野球大会

- 目的  
夏の防犯運動の一環として、ス  
ポーツを通じ少年の非行の防止  
と、青少年の健全育成のため
- 日時  
8月18日、19日午前8時30分から  
(雨天延期)
- 場所  
金木町芦野グラウンド(小学校の部)  
金木町立喜良市小グラウンド(中学  
校の部)

### 落とし物・忘れ物

- 7月の中ごろに役場車庫前から四  
角い小銭入れを拾いました。
  - 役場3階大会議室に、黒い毛糸の  
カーディガンが忘れてありました。
- ※お心当たりの方は役場総務課まで  
お尋ねください。  
☎3-2111内線34・37

### ご奉仕 ありがとうございます

6月28日に天理教西北第2支部（  
支部長～津島陽一）の方々約30人が  
芦野グラウンド道路側の草取りをして  
くださいました。

### 青森県立 郷土館行事案内

- テーマ  
郷土の学習コーナー
- 内容  
小・中・高校生を対象に学校の夏  
休みに、郷土の自然、考古、歴史  
民俗産業について、学習コーナ  
ーを設け、専任の係が相談に応じま  
す。
- 会場  
郷土館小ホール
- 期間  
昭和56年7月21日～8月23日
- テーマ  
特別展「津軽半島自然展」
- 内容  
自然調査の結果をもとに、半島の  
地史、動物相、植物相等を紹介し  
ます。
- 会場  
郷土館、大ホール
- 期間  
昭和56年7月28日～8月23日
- ※問合せ先  
青森市本町2-8-14  
青森県立郷土館

☎0177-77-1585



ちよっとした心づかいも緑のうち

日本電気公社

喜良市国有林弥七郎沢に一本の木から十二の股枝が分岐しているヒバの太木がある。樹令はざっと四〇〇年と推定され、十三本になればどこかが枯れ、いつも十二本を保ち、山の神に関係あるということで、神木としてあがめられている。

三五〇年ほど昔のことだという。喜良市の村に弥七郎という百姓の若者がいた。気の弱い男で、村人からいつも臆病者扱いされていた。喜良市の村人は秋まで田畑仕事に精を出し、冬になると四、五人が一組になって山に入り、山小屋にこもって伐採やソリ出しの仕事に従事するのが例だった。ある年のこと、弥七郎も近所の者四、五人と一緒に山に入った。同じ山仲間のくせに弥七郎の臆病を軽べ



樹高約二十五メートル、胸高周囲六、六メートルの巨木は今も健在である

# 神木の由来

## 十二本ヤヌ

あんまり弥七郎の名ばかり聞かされるので、山に住む魔物が弥七郎という名を覚えてしまったらしい。毎夜遅くの山から「弥七郎、弥七郎」と不気味な呼び声が聞こえてくるのだ。弥七郎は完全にノイローゼになって、仕事も手につかなくなってしまった。「このままでは殺されてしまう」とある夜弥七郎は一大決心する。

翌朝仕事を休んだ弥七郎は、同僚が仕事に出たあと山小屋にこもってマサカリを念入りに研いで、夜を待った。

ボタ雪降りしきる夜、また「弥七郎……」と魔物の呼び声。はね起きた弥七郎はしっかりとマサカリをにぎりしめ、「オーイ」と大声で返事をしながら雪の中に飛び出した。この勢いに魔物も驚いたか、呼び声は

次第に遠のいていく。「逃がしてなるものか」と、弥七郎は声をたよりにどこまでも追った。

とうとう見つけた。切り株に腰を下ろした魔物が、眠そうに首をうなだれながらなおも「弥七郎」と呼んでいるのを見つけ、「この野郎！」と一撃。「ギャッ」と一声、魔物は脳天を割られて、新雪を血に染めながら切り株からころげ落ちた。

その夜はそのまま帰った弥七郎、夜が明けて同僚と

一緒に現場に行ってみたら、年老いた白毛のサル、これが山子たちを恐れられていた山の魔物の正体だったのだ。

弥七郎が大いに見直されたのは当然だが、村人は退治された魔物のたたりを恐れて、切り株のかたわらに一本のヒバ苗を植えて供養したところ、このヒバは大きくなるにつれて変な形になった。幹の途中で十二本の枝が分かれて、ちょうど魚を突いて取るヤヌを逆立てたように見えるので、だれいこうとなく「十二本ヤヌ」と呼ばれるようになった。

十二は十二月十二日の山の神祭日に通じる神聖な数、これは山の神サマが宿った木に違いないということで、鳥居を奉納、神木としてあがめ今日に至っている。

古老の話によると、新しい枝が出て十三本になるとどれかが一本枯れて、常に十二本のままという不思議なことだ。

× × ×  
× × ×  
× × ×

“生命の源”を大切にしていますか

8月1日は「水の日」

電気がつけていますか  
電気の省エネルギー